

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4370200984		
法人名	社会福祉法人ま心苑会		
事業所名	グループホームま心		
所在地	熊本県八代市敷川内町2243-2		
自己評価作成日	令和5年9月5日	評価結果市町村受理日	令和5年12月6日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者様が安心して楽しく過ごせるようにスタッフ全員協力して取り組んでいます。御家族様の協力も得ながら定期受診の付き添いや、かかりつけ医との協働を心掛けて健やかな日々を送られる様に支援しています。入浴設備として天然温泉に入浴して頂き心身のリフレッシュを図っています。又、季節ごとの行事に取り組むことで肌で季節感を感じて頂き、季節に応じた歌を歌い利用者様の笑顔が引き出せるようにスタッフ全員で取り組んでいます。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/43/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 あすなろ福祉サービス評価機構
所在地	熊本市中央区南熊本三丁目13-12-205
訪問調査日	令和5年10月25日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

芦北方面に向かう幹線道路からわずかに入った場所にあるホームは、周囲が田畑や花き栽培の水田、地域特産の晚白柚畑など静かな環境にある。コロナ5類移行は、散歩や車両を使って少しずつ季節の花見(桜・紫陽花・コスモス・彼岸花・ブーゲンビリアなど)外出が出来ている。ホーム菜園は職員家族の協力も得ながら入居者と一緒に野菜や花を育てており、今年はスイカも実り皆で季節の味を楽しめたようである。ホームでは母の日、父の日を『両親の日』として祝っており、それぞれの入居者の笑顔が広報紙でも紹介されている。ケアマネジャーは、それぞれの職員が小さな情報を持ち寄り、全職員がプラン作成に関わるのが重要とし、毎月のミーティングやカンファレンスの機会を大切にしている。就任間もない新管理者は在籍している前管理者2名のアドバイスを生かしながら新たな視点で、コロナ禍で出来なかった部分をカバーしていきたいと意欲を語っている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者や職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	安心・ま心・信頼を理念に掲げ、利用者様が不安なく利用者様の今の気持ちに共感し、信頼される職員になることを目指して、毎日の申し送り後に使用者様、職員が唱和し意識付けしている。	ホーム名“ま心”はそのまま理念となり、職員は入居者の信頼を得ながら、安心して暮らせる環境の中で過ごしてもらおう努力を重ねている。ホームでは自然な形で入居者が朝礼に参加されることが日課となっており、一緒に理念を口ずさまれたり、「今日は天気よかね～！どっか行こごたる」など外出の要望なども出されている。	運営推進会議が直接開催となったことで、改めて理念を紹介したり、「安心・ま心・信頼」に基づいたホームの取組を発信されればと考える。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍により、地域交流はなかなかできなかったけれど、玄関前の花き農家さんからお花を戴いたり、写真を撮ったりしました。	田園風景の中に建つホームでは、周辺の花き農家とのやり取りや花の差し入れなどを通して交流している。地域への外出を控えている中ではあるが、ドライブを兼ね四季を通じてコスモスや紫陽花などの花見学に出かけている。職員は入居者の要望に応え、その日の体調によって近隣の散歩コースを変えながら、外気に触れるようにしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議で地域の民生委員さんの参加があり、GHの事業内容や活動内容、利用者様の反応等を紹介して、周りに認知症でお困りな方がいらしたら、包括支援センターやGHま心へお声かけして頂く様お伝えしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	昨年はコロナウイルス感染防止の為、一度も実施できず、書面での報告になりました。本年度は事前に資料を配布し一読して頂き実施しました。民生委員さんからは地域の祭りを今年から実施していくので参加のお誘い等も受けました。	本年度は5月を初回として参加者との直接開催が実現している。数年ぶりの対面での開催に参加者からもたらされる地域の祭りや行政主催の福祉展などへの情報が今後の外出につながるとされる。入居者の現状や事故、研修報告、身体拘束適正化委員会の設置などホームの現状を明らかにしている。	議事録は玄関などに開示し、家族等外来者がいつでも見れる状況にあることが期待される。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	八代市の保険課の事業所指導係さんへは推進会議にも参加頂き、助言や、運営する上で分からない事を指導して頂いています。	行政や包括センターからの運営推進会への参加により情報を共有し、地域交流や外出の機会につないでいる。新年度より八代郡市のグループホーム連絡協議会も活動をスタートさせており、地域情報の共有と身体拘束や虐待、BCP策定などの研修結果は全職員に伝達されている。	8月の運営推進会議の折には、久しぶりのホーム開催という事もあり、参加者に実際に内部を見てもらい入居者の普段の様子を確認してもらおう等工夫している。相談事には指導係と連携しながら対応しており、今後も良好な関係継続が期待される。
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	月に1度GHブロック会が本年度より開催され、その中に身体拘束の排除・高齢者虐待防止の勉強会が有りました。ホームに持ち帰り、職員全員に改めて認識してもらい実践に取り組んでいます。	管理者は職員とともにクリーンなホームの体制を継続したいとして、勉強会では外出傾向にある方の対応について最良の方法を検討している。ニュースなどの事例を通して意見を出し合い、言葉使いなどに気になる点があればその都度話し合うようにしている。	入居者の中には居室に人感センサーを使う方がおられるが、ケアプランの中に入れて家族に説明している。今後はプラン説明時に経過報告をすることで更なる安心につながるものと思われる。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	今現在、職員同士や利用者様、そのご家族様との関係は良好で、虐待は無いと、自信を持って言えます。しかしながら、自身の体調不良などで言葉遣いがきつくなったりするかもしれないという危機感は常にあり、定期的に学ぶ機会を設け、プロ意識を再確認しています。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	地域包括支援センターより権利擁護に関する資料を頂き、講師を呼んで勉強会を開催する予定でしたがコロナ禍によりできませんでした。職員と資料の確認をしました。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書や重要事項説明書は契約時に説明しながら疑問点は無いか尋ねながら行っています。パット類は持ち込みするのか、散髪はどうされるのか苑でも詳しくお聞きし、お互い納得しながら契約や契約解除を行っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族様とは面会時やプラン作成時等に要望や意見をお尋ねしています。利用者様からは職員ミーティングの参加時意見を求めています。なるべく利用者様の意見を取り入れる様に努めています。	入居者と職員との距離が近く、普段から朝礼に自然に参加されており、外出や食への要望を出されている。家族からは必要な品について連絡があるなど入居者を心配されており、職員は日頃から家族が言いやすい雰囲気作りを努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	連絡ノートが有り、休みに居なかった職員は、出勤してから一番に目を通し、いなかった日の出来事や連絡ごとを把握して頂いている。一つのことを決めるのにも職員の意見を聞いて決めている。	職員の勤務時間の改定により、月8日の休みを9日としたり、有給取得についても必ず取ってもらうようにしている。職員は出勤時に連絡ノートに目を通し、状況を確認したうえでケアに入っており、外部研修での情報は全職員で共有し、ケア向上に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	労働時間の改定があり、月に8日から9日の休暇になったり、有給休暇も遠慮なく取得でき、職員の身体の休養確保ができ普段の勤務が無理なくできています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	現在一人の職員が初任者研修の受講中であり、無理のない時間配分を行っている。他の職員にも機会があれば積極的に研修への参加を促して行きたい。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナ禍で集合しての交流は出来なかった。どうしても尋ねたいことや情報は電話で尋ねていました。		
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所時にまず、本人様と会話をし、性格だったり、思いだったりを聴くようにしています。以前家族様が家に帰ると本人様に言って連れて来られたことが有り、かわいそうな思いをしたことが有りました。慣れられるまでは傾聴、声かけを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	初期段階で、家族構成や家族様の状況など伺い、特にお困りな事、心配なことなどお聞きし、出来る範囲でのお声かけを行っている。ご自身の体調不良など話され、傾聴、お大事になさいますの声掛け等で信頼関係の構築を図っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	初期面談で利用者・家族様の要望や必要としている事、困りごとなどを伺い、他のサービスが必要かどうかなどの相談を家族様含め行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人様の残存機能や出来る事の判断をし、日常の中で一緒に行動し考えたり、実行したりできている。掃除・洗濯・畑の管理等。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の面会時には、健康面だけでなく、最近あったエピソードなど詳しく報告させて頂いている。本人様にも家族様の近況が分かるように会話の中で引き出している。ホームで撮った写真はラミネートして、家族様にお渡しして喜ばれている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ここ数年はコロナ禍により、ガラス越しでの面会で、会話できない状態だったけど、今年度からは条件の範囲で対面での面会ができています。孫、友人、従妹など多くの面会が有り、喜んでいただいている。墓参りなど外出もされている。	現在家族との面会は時間を決めて対面で行われており、互いに安心されるようである。友人が入居者の好物を届けられるなどこれまでの関係性を大切にしている。リビング内では法人から引き継いだ替え歌が飛び出したり、得意な家事仕事をこなしながら、ホームの一員として生活されている。コロナ感染症の5類移行後には家族との外出や外泊の支援も行われている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	普段は仲良くTVを観ておられる事が多いけれど、時にトラブルが発生したり、アクシデントが有ったりすることがある。そういう場合は職員が仲を取り持ち、意識を他に持って行く様努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終了してもその後の本人様の状況は気になり、家族様に伺ったりしている。入院されそのまま退所になられた利用者様が回復したら、再び入所したいと申し込みされた例もある。家族様の思いや相談にも対応している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人様の意向を伺い、実現に向けてのプランを作り努めている。	職員は入居者の思いを普段の会話からくみ取り、月初めのミーティングで情報を共有して支援に反映させている。入居当初のアセスメントから、その後の状態や生活ぶりを見ながらアセスメントを取り直すなど、情報の掘り起こしに職員意見が反映されている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	初期段階に置いて、その人の生活歴を紐解き、その人が安心、安全に生活出来る様、なるべく今までの環境に近いサービスの提供を行っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	著しく機能の低下が見られる利用者様がいる一方、変化が無い利用者様もいらっしゃいます。9人9色の個々の変化を見逃さない為にも連絡帳や個人ファイルなどで情報の共有を行い、モニタリング実施で確認している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日々の生活の中で、特に気になった事や変化があった場合は家族様、必要に応じてDrの意見を聞きケアカンファレンスで職員と共有し、必要時はプラン見直し等を行っている。	ケアマネジャーはプラン作成にあたり、全職員が関わる事が重要とし、職員意見や気付きをその日の出勤者だけでその都度カンファレンスの機会を持つようにしている。入居初回のモニタリングを1か月後とし、その後3か月や半年を目途に評価している。さらに担当者会議で家族の意向を聞きながらプランを説明し、入居者の中には自筆にてサインされる方もおられる。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の暮らしやプランに沿って個別運動、個々のサービスが出来ているかを個人ファイルに残し、分かり易く経過観察にまとめている。職員間で共有し必要に応じてプランの見直しを行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	歩行が不安な利用者に対して、歩行器の利用を提案したり、体調不良で点滴が必要な利用者様に対して訪問看護の利用をしたりとその時々ニーズに応え、取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	定期的(2か月に1回)に散髪でさっぱりして頂いている。又、災害等の訓練も消防署員や地域の消防団員の協力を受け行っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	現在は専門医と協力医療機関にかかられている方が居られます。協力医療機関では風邪など一般的な疾患時に診て頂き、専門的な内服薬は主治医より処方して頂いています。どうしても受診時は家族様の協力が必要になっています。	本人・家族の意向を確認し、現在は協力医療機関による定期的(週1回・月2回など)な訪問診療や専門医受診を家族や職員も同行するなど状況に応じて支援している。協力医による受診時に月1回採血が行われ、結果によっては総合病院などを紹介されるなど適切な医療支援が行われている。歯科については必要時に、協力歯科医による訪問診療を支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	ホームには看護職がおらず、どうしても必要時には母体(特養)の看護師に協力頂いています。訪問看護の抜針時は協力頂きました。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者様の入院時はその方の情報提供を速やかに行い、病院との連携に努めている。又、家族様の不安などにも傾聴し安心して頂くよう努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	皆様高齢であられる為、いつ何時、心肺停止という状況に遭うかもわからないという意識は常にあり、急変時ケアに関する意思確認書という書類を作成している。変化時には変更撤回も可能。	入居時に終末期に支援についてホームに出来得るところまで努める事を伝え、急変時の対応について意思確認書を受けている。また、意思確認書は変更が可能であることや、母体法人の特養施設について説明している。今後ホームでの終末期支援について検討していきたいとしている。隣接して特養施設がある事は、家族にとって安心の一つになっている。しかし本人にとって移動は不安などもある事から、職員は入所決定後は特に心情を察して対応している。	庭先で職員と談笑しながら洗濯物干しや好きな歌を歌うなどホームの日常を見る事が出来た。今後も普段の関わりを大切にしたい支援に努めていられる事を期待したい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	利用者の急変時や事故発生時には全ての職員が対応できるか疑問なところもあるが、経験豊富な職員が多く慌てず出来るのではないかと思います。が、今後訓練等の講習を行って行きたい。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	近年は大きな災害があっちこっちで起こっており、いつ起こるか分からないと言う意識を持ち、法人全体でBCP策定しシュミレーションを行っている。	年2回隣接する母体特養施設と合同で消防訓練を実施し、広報誌の中で紹介されている。昨今は自然災害が各地で発生しており、法人全体でBCPを策定しシュミレーションも行われている。災害備蓄は特養厨房で3日分が確保されている。	コロナ禍前は地域消防団による安全点検なども行われていたようである。身近な消防団との関係構築のためにも再開が期待される。また日々の安全チェックについてはリストを作成し、職員が意識を持って取り組まれることを期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者の人格を尊重し言葉遣いやプライバシー保護には気を付けている。特に入浴時やトイレでの排泄時は羞恥心を損ねない様な対応を行っている。	入居者の尊厳やプライバシーに配慮した対応について職員間で共有を図っている。呼称は基本的に苗字としているが、反応や要望などから下の名前でも対応している。トイレの見守りが必要な場合は、戸の開きや声掛けなども十分配慮している。同性介助について以前は実践していたが、現在は要望される方もおられず、了承のもと異性での対応も行われている。	入室時のノックについては、再度周知や確認が必要としており、取組が期待される。また、ガラス戸の大きさや材質によってはトイレ内が見えてしまわないかなど、今一度確認する機会を持つ事も必要と思われる。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人様の思いに応えられるような対応を心掛けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	天気の良い日に、どっか行こごたる。といわれる利用者様がおられれば、都合の限りドライブに誘い出すなど、日程以外でも、思いに添うよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	整髪・身だしなみは起床時に行い。男性は髭剃りも行っている。入浴後には爪切りも定期的に行い清潔に保たれている。季節に不具合な衣類を着ておられると、声かけし、合った洋服に着替えるなどしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しいものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	現在4名様がお粥で、3名様はミキサー食といった形態で提供している。好き嫌いも把握し代替えなどで対応しながら、完食されるのをサポートしています。又、利用者様が食器洗いなどの手伝いをされています。	以前はホームで調理が行われていたが、現在は職員配置などの面から主菜・副菜を業者による調理済みのものを活用しご飯をホームで炊いている。嚥下力も様々でありお粥やミキサー食など個々に応じて準備し、見守りや介助が行われている。職員1名が検食を摂っており、入居者の反応や残食などと合わせ、気づいたことや感想は直接業者に伝えている。入居者が普段調理に関わる機会は持たれていないが、食器洗いや拭き作業など出来る事で食への関わりが持たれている。	行事のおやつ(十五夜おはぎなど)や饅頭など手作りを心がけており、入居者も喜ばれているようである。今後職員配置に余裕がある場合は、クッキングの日などホーム台所から料理の匂いを楽しめる機会を持たれることも期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとり食事の量は異なり、それぞれに合った量を提供している。水分量は一日を通して定期的に水分補給をし、水分量の記録、排泄回数との関係も確認出来る様にしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアは毎食後行っている。自力で出来る人でも仕上げの磨きは行っている。口腔内の異常やトラブル等が無いが観察もし、必要時は増田歯科へ相談。往診いただいている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄の時間や排便の有無など記録してパターンを把握し、定期的にトイレ誘導、声かけを行い、失敗が少なくなるよう支援している。	排泄パターンを把握し、声掛けや誘導、見守りによる排泄支援が行われている。日中は殆どの方がリハビリパンツを使用されているが、昼夜を通し布パンツで過ごされる方もおられる。夜間も必要に応じ誘導やオムツの使用など個々に応じ対応している。排泄用品はホームで準備しているが、面会を兼ねて持参される家族もあり、不足が無いよう連絡を行っている。トイレは3か所設けられ、清潔に管理されている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	なるべく自然排便を心掛けて、朝食にバナナやヨーグルトのデザートと一緒につけるなど工夫している。廊下の歩行運動にも力を入れている。どうしても便秘がちな利用者様はDrへ相談し内服薬の処方をして頂いている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴は天然温泉で週2~3回入っておられる。皆さん、午前中にゆっくり入って頂いています。入浴されない方は、陰部洗浄を行い清潔に保持しています。	入居者の希望を聞きながら午前中を中心に週2~3回の入浴支援が行われている。温泉が楽しめるホームの浴室は、周辺が田畑という事もあり、夏場は窓を開け特に開放感の中では入る事が出来る。身体状況からシャワー浴が中心の方もおられ、足浴の併用や冬場は特に浴室を温めながら支援している。シャンプー類はホームで準備しているが、好みの物を個別で準備される方もおられる。	シャワー腰掛場所に置かれた洗剤については、安全面から別の場所で管理される方が良いと思われる。取組に期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一晩の中で10時間から12時間の睡眠をとってられる。睡眠の環境整備に気を配り、気持ちよくしっかり睡眠が確保できるよう支援している。日中必要に応じて1時間ほどの休息をして頂いている方もおられる。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服薬はある程度、ひとりひとりの薬の内容を把握し、症状の変化を観察、記録している。症状の改善が無い場合はDrに相談し薬の調整を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	残存機能を見極めて出来るお手伝いをして頂いている。長時間続かなくても楽しみながらされている。レクレーションではカラオケを楽しんだり、塗り絵や頭の体操(漢字・計算)などもされている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍で外との交流が出来なかった分、コロナが5類へ変更になってからは、家族様との面会や外出、外泊を解禁し、温泉や外食等に出かけられる利用者さまもおられる。季節の花が見ごろになれば、ドライブを兼ねて花見に出かけたりしている。	コロナ5類移行後は規制を緩和し、地域資源を活用した花見学(桜・紫陽花・こすもす・彼岸花・ブーゲンビリアなど)へ車両で出かけたリや散歩の機会も持たれている。また家族の協力により外泊や外食、温泉利用などを実現された方もおられる。「天気よか～外に出るか～！」と、外出を要望される方もおられる。秋晴れの庭先で職員と椅子に座り談笑や手際よく洗濯物干し、取り入れをされる方など日常の光景を見る事が出来た。	コロナ禍により苑の畑の管理が出来ておらず、今後は年間作業計画を作り、野菜を育て調理への活用、花を眺めながらお茶を楽しむなど構想があがっている。実現を期待したい。また、家族や地域の協力を得ながら以前のような外出支援が展開されていくことが期待される。
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買い物支援もコロナ禍によりできなかったもので、今後は検討して行きたい。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人様から電話をして欲しいとの要望がある時は必ず電話して会話を楽しんで頂いています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	日中殆ど過ごされるフロアには観葉植物や季節の花を飾り穏やかな気持ちになる様心がけている。冷暖房により居心地がよく、感染予防の為にオゾン発生装置を設置したり、換気をしたりしている。	コロナは5類に移行されたもののインフルエンザなど感染症への対策は継続して取り組んでおり、換気や、消毒などが徹底されている。リビングや洗面台などは入居者の活動の場であり、季節の花や観葉植物を飾ったり、温湿度も入居者の状況を見ながら調整している。ソファで寛いだり、テーブル席は固定されているが、その日の状況によっては変更しゆっくり食事や談笑が出来るようにしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	TVの前のソファがお好きな方やテーブル席の椅子で一人で過ごされる方。それぞれの場所で過ごされる利用者様がおられる。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	テレビを置いたり、畳を敷いたり、ご主人の写真に毎朝お茶をお供えしたりと御自分の居心地の良い居室を作っておられます。時々家族様から季節のお花が届き、活けて眺めておられます。	入居時に必要な物品についてリストをもとに説明と、本人の安心につながる品など何でも持ち込んで良いことを伝えている。家族が載った新聞の切り抜きを掲示されている方や、職員が淹れた一番茶を遺影に供える方、家族が持参した自宅に咲いた花を飾る方など個々に応じた居室環境を支援している。季節外の衣類や寝具など家族による入れ替えもあるが、主に職員が居室クロゼットで管理している。中には天候の良い日に自身で、窓の柵に布団干しをされる方もおられる。	訪問当日は秋晴れの天候で寝具なども日光干しされている光景がみられた。このような取組も写真を添えて広報誌などで紹介することで家族の安心につながると思われる。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	歩行器を使用されている方や押し車の方、車いす対応の方と、それぞれ個人に合った福祉用具の使用者が居られます。危険回避の為に、お互い余裕をもって動ける空間の確保に心がけています。		